

臺灣蕃族ノ血液所見, 殊ニソノ核型ニ就テ

其 1. パイワン族

金澤醫科大學病理學教室(杉山教授指導)

學生 池 田 邦 武

(昭和10年9月13日受附)

目 次

緒 言	第2節 嗜中性白血球核型
第1章 實驗材料及ビ實驗方法	第1項 實驗成績
第2章 實驗成績及ビ考按	第2項 第2節ノ總括及ビ考按
第1節 各種白血球百分率	第3節 嗜エオゾン白血球核型
第1項 各種白血球百分率並ニソノ度數 分布	第1項 實驗成績及ビ考按
第2項 第1節ノ總括及ビ考按	第3章 本篇ノ結論 文 獻

緒 言

當教室小野田博士ノ研究ニ據レバ、多核白血球ノ核數ハ動物ノ種族ニ依リテ異ナリ、分化ノ高キ動物ハ一般ニ核數多ク、分化低クナルニツレテ核數ノ減少ヲ視ルト。

斯クノ如ク、若々ノ白血球核數ハ偶然ノ者ニ非ズシテ、種族特殊性ヲ有スルハ明ラカナリ。

故ニ人類各種族ニ於テモ、ソノ特殊性アルヤ否ヤハ興味深キ事ナリ。

幸ニ臺北醫學專門學校教授横川定氏及ビ、森下講師ノ御好意ニ依リ臺灣生蕃パイワン族ノ血液塗抹標本ヲ得タルヲ以テ、夫ノ百分率並ニ、核型ヲ檢索シタルヲ以テ茲ニ報告セントス。

第1章 實驗材料及ビ實驗方法

森下講師ノ得タルパイワン族中ノカナライ社及ビボタン社ノ蕃人血液塗抹標本35例ニシテ、之レニ「メーギムザ液」ニテ染色ヲ施シタリ。

鏡檢ニハライツ顯微鏡ヲ用ヒ、油浸裝置(接眼レンズ4、油浸裝置1/12)ヲ利用シタリ。實驗成績ノ記載ニハ杉山教授ノ考案ニナル血液檢査表ヲ使用シ、可動性載物臺ヲ横ニ端ヨリ端迄運動カシ、視野ニ現ハル、白血球ヲ選擇スル事ナク數ヘタリ。

嗜中性白血球ノ核分葉數ノ算定ニハ2様ノ方式ヲ用ヒタリ。即チ其1ハ上述ノ顯微鏡ノ廓大ニテ、連結絲(Verbindungsfaden)ヲ標準トシテ核分葉數ヲ數ヘタルモノニシテ、其2ハ連結絲ノ他ニ連結橋(Verbindungsbrücke)ヲモ採用シテ核數ヲ數ヘタルモノナリ。但シ連結絲ハ核ノ分葉ガ絲狀ノ核質ニヨツテ連結サレタルモノニシテ、コハ屢々認め難キコトアリ。又連結橋ハ長核ノ「クビレ」ニヨリテ生ジタル細キ部分ヲ意味ス。

核ノ長短ノ標準ニハ、長徑ト短徑トヲ目分量ニテ測リ、前者ガ後者ノ2倍以上ノモノヲ長核トシ、2倍或ヒハ夫以下ノモノヲ短核トセリ。且細胞數100個ヲ觀察シテ核型ヲ算定シ、百分率ハ細胞數各々200個ヲ觀察シ之ヨリ算定セリ。

血液ノ採集地ハ「マラリヤ」流行地ニシテ毎月10%内外ノ發病者アリト。故ニ當標本ノ血液ハ、外觀上健康ニ見ユル者ノミヨリ取りタルモノナリト雖モ「マラリヤ」其ノ他ノ寄生蟲保持者等ナキヲ保證セズ。殊ニ嗜エオゾン白血球ノ多キ事ハコノ懸念ヲ深カラシム。

第2章 實驗成績及ビ考按

第1節 各種白血球百分率

第1項 各種白血球百分率並ニ度數分布

第1表 臺灣蕃族ノ血液所見、殊ニソノ核型ニ就テ

實驗例	各種白血球百分率						白血球 200 個中ニアリ シ退行性細 胞數
	骨髓性	嗜中性	嗜エオ ゾン	嗜鹽基性	淋巴球	大單核球	
1	—	50.5	9.5	1.0	31.0	9.0	21.0
2	—	38.5	14.0	0	38.5	9.0	21.0
3	—	52.0	10.0	0.5	28.0	9.5	7.0
4	—	36.5	12.0	0.5	41.5	9.5	23.0
5	—	43.5	16.5	1.5	27.5	11.0	53.0
6	—	34.5	7.5	1.0	47.0	10.0	19.0
7	—	41.5	9.5	2.0	36.0	11.0	22.0
8	—	37.0	18.0	1.0	41.0	3.0	5.0
9	—	52.0	5.0	0.5	39.0	3.5	0
10	—	35.5	18.0	0.5	42.0	4.0	7.0
11	—	42.0	8.0	0	40.0	10.0	11.0
12	—	55.0	10.0	0	27.5	7.5	6.0
13	—	45.0	4.5	0.5	46.5	3.5	0
14	—	36.0	6.5	0.5	51.5	5.5	12.0
15	—	64.0	3.5	0.5	26.0	6.0	0
16	—	34.5	7.5	1.0	47.0	10.0	33.0
17	—	41.0	18.5	1.0	34.5	5.0	18.0
18	—	49.5	21.0	2.0	22.5	5.0	0
19	—	36.0	5.5	0	51.0	7.5	37.0
20	—	43.0	16.5	1.5	30.0	9.0	10.0
21	—	50.0	12.0	1.0	31.0	6.0	0
22	—	48.5	15.0	0.5	33.5	2.5	0
23	—	52.0	11.5	0	33.0	3.5	13.0
24	—	66.0	12.5	0.5	19.0	2.0	20.0
25	—	49.5	15.5	0	31.0	4.0	17.0
26	—	52.0	10.0	1.0	31.0	6.0	10.0
27	—	57.5	8.5	0.5	32.5	1.0	15.0
28	—	63.0	12.5	0	19.0	5.5	16.0
29	—	47.0	9.5	0.5	38.5	4.5	6.0
30	—	64.0	10.0	0	22.5	3.5	0
31	—	48.5	14.0	0	31.0	6.5	0
32	—	55.0	7.5	1.0	31.5	5.0	0

33	—	49.5	6.5	0	37.5	6.5	0
34	—	57.0	14.0	0.5	22.0	6.5	0
35	—	53.0	15.0	0	27.5	4.5	0
平均値	—	48.0	11.3	0.6	33.9	6.1	

第 2 表 臺灣蕃族ノ血液所見, 殊ニソノ核型ニ就テ

各種白血球百分率度数分布表									
嗜中性		嗜エオジン		嗜鹽基性		淋巴球		大單核球	
百分率	度数	百分率	度数	百分率	度数	百分率	度数	百分率	度数
32.5-37.5	7	0- 1.9	0	0-0.49	11	17.5-21.5	2	0- 1.9	1
37.5-42.5	4	2- 3.9	1	0.49-0.99	12	21.5-25.5	3	2- 3.9	7
42.5-47.5	4	4- 5.9	3	0.99-1.49	8	25.5-29.5	5	4- 5.9	9
47.5-52.5	8	6- 7.9	5	1.49-1.99	2	29.5-33.5	10	6- 9.9	13
52.5-57.5	8	8- 9.9	5	1.99-2.49	2	33.5-37.5	3	8-11.9	5
57.5-62.5	0	10-11.9	5	2.99-2.99	0	37.5-41.5	5	10-13.9	0
62.5-67.5	4	12-13.9	4			41.5-45.5	2		
67.5-72.5	0	14-15.9	6			45.5-49.5	3		
		16-17.9	2			49.5-53.5	2		
		18-19.9	3			53.5-57.5	0		
		20-21.9	1						

上記表ニ依リ次ノ所見ヲ得ベシ。

1. 嗜中性白血球

最高 66.0%ヲ示スモノ 1 例ヨリ最低 34.5%ノ者 1 例ニ至リ全體ノ平均ハ 48.0%ナリキ。

2. 嗜エオジン白血球

一般ニ百分率大ニシテ最高 21.0%ニ達セルモノアリタリ。今生理的範圍ヲ、5%以下トスレバ、是ヲ超エザル者 3 例ニ過ギズ。而シテ全體ノ平均値ハ 11.3%ナリ。コノ細胞ノ數多キ事ハ寄生蟲ノ保有者アルベキコトヲ想像セシム。

3. 嗜鹽基性白血球

2%ヲ示ス者 1 例アリ。0.5%ノ者最モ多ク 12 例アリ。平均 0.6%ニシテ大體ニ於テ生理的ナリ。

4. 淋巴球

51.5%ノ者最高ヲ示シ 1 例アリ。最低 19.0%ノ者 2 例アリ。全體ノ平均値ハ 33.9%ナリキ。

5. 大單核球

最高 11%ノ者 2 例、最低 1%ノ者 1 例アリ。且、所謂 Ferrata ノ内皮細胞ト認メラル、者全體白血球數(200×35=7000個)中ニ 42 個存シ居レリ。

6. 退行性細胞

茲表中ノ退行性細胞ノ數ハ1枚ノ標本, 200個ノ白血球ヲ數フル中ニ=視野=現ハレ來リシモノニシテ, 其ノ核ノ萎縮シ, 構造不鮮明, 又ハ濃染セル者, 乃至ハ原形質中空胞ヲ生ジ, 顆粒ハ減少シ又ハ消失ヲ示シ, 細胞種類ノ鑑別困難ナル者ヲ示ス. 一般ニ退行性細胞トシテ, 大單核球, 或ハ大淋巴球ノ大サノ者多シ.

第2項 總括及ビ考按

百分率ニ就テ一驚スルハ, 嗜エオジン白血球ノ高率ヲ示ス者多數存セル事ナリ. 今嗜エオジン白血球ノ生理的動搖範圍ヲ1%ヨリ5%トセバ, 當實驗ニテハ5%ヲ超エザル者僅カニ3例, 21%ノ高率ヲ示ス者1例. ソノ平均値ハ11.3%ニ達シタリ. Naegeli ハ血液中ニ, 嗜エオジン白血球ノ增多ヲ惹起スベキ種々疾患ヲ列擧シ居レリ. 即チ次ノ如シ.

1. 白血病

骨髓性白血病ノ際ニ, 4—6%又ハソレ以上ニ達スル事アルモ, 全ク該細胞ノ增多ヲ缺ク例モ少ナカラズ. 淋巴性白血病ニテハ該細胞ノ増加ハ認メラレズ.

2. 猩紅熱

發疹ノ旺盛ナル時ニ於テハ20%以上ニ達スル事アリ. ソレ故猩紅熱ノ病因ハ細菌ニ非ズト考ヘラレシ時代アリト.

3. 總テノ寄生蟲

「ヂストマ」, 「ファイリヤ」, 條蟲, 十二指腸蟲, 旋毛蟲, 「マラリヤ」ノ恢復期等ニシテ, 特ニ旋毛蟲ノ寄生ニ際シテ最モ著シク, 時ニ80%以上ニ達スル事アリト云フ.

4. 氣管枝喘息

發作ノ初期ニ於テ著シク, 時ニ尿中ニ排出サル.

5. 種々皮膚病

乾癬, 天疱瘡, 癩疹, 蕁麻疹, 膿痂疹, 濕疹, 水銀性皮膚炎等ニ見ル.

6. 急性筋肉ロイマチスムス

7. アナフィラキシー, アレルギー, 滲出性素質等ニ見ル

8. 神經疾患

Naegeli ハ神經の下痢ノ患者ニテ, 10%ノ嗜エオジン白血球增多ヲ認メ, 且ソノ他ノ種々ナル所見ヲ合セ考ヘ, 慢性ノ盲腸周圍炎ト區別診斷セリ. Klinkert ハ家族的ニ嗜エオジン白血球增多ヲ示ス例ヲ例記シ居レリ.

9. 種々傳染病ノ恢復期

10. 脾臟摘出後, 時ニ來ル事アリ

11. 惡性腫瘍

淋巴肉芽腫症ノ場合ニ於テハ, 30%迄ニ達スル事アリ.

12. 小兒ハ生理的ニ高率ヲ示ス. 然シコノ場合, 寄生蟲ヲ常ニ念頭ニ置カザルベカラズ

以上ノ諸疾患ヲ合セ考フルニ, 外觀上健康ニ見ユル者ヨリ血液ヲ取りタルモノナルモ恐ラク何ラカ寄生蟲ニ胃サレテ居ル者ナルベシ. 35例中30例迄モ嗜エオジン白血球ノ増加ヲ示セ

ル處ヨリ考フレバ彼等蕃人ノ生活狀態，治療ノ不完全サノ一端ヲ想像スルハ不穩當ナル乎。

尙同地ハ「マラリヤ」流行地ニシテ，毎月10%内外ノ發病者アリト。而シテ「マラリヤ」ノ恢復期ニハ，嗜エオジン白血球增多症ヲ來スヲ以テ本實驗ノ結果ハ，コノタメナラズヤト思考セラル。

次ニ大單核球白血球ニ就テ考フレバ，「マラリヤ」罹患者ハ，發汗，解熱期ニ血液中ニ該細胞ノ増加ヲ示シ，殊ニ發作ノ反覆襲來スルヤ，20%ノ高率ニ達スル事アリ。當例ニテハ，總平均ハ6.1%ニシテ變化ナキモ個々ノ例ニ就キテ生理的動搖範圍ヲ4—8%トスレバ，是ヲ超ユル者11例アリ。即チ僅カニ増加傾向アリ。由來血中ニ，大單核球細胞ノ増加ヲ示ス諸疾患トシテハ次ノ如シ。

1. 痘瘡，結核，徽毒，ワイル氏病，再歸熱（發作ノ直後），流行性耳下腺炎，麻疹，猩紅熱，發疹チブス等ノ諸種傳染病。

2. 原蟲病

「マラリヤ」，「トリパノゾーマ」，「カラーアツァール」。

3. 所謂，「モノチーテン，アンギーナ」

4. バンチ氏病

5. 高度ノ血管硬變症

以上ノ諸疾患ニテ大單核球細胞ノ増加ヲ血中ニ視ルモ，當例ニテハ，同地ガ「マラリヤ」流行地ナルヲ以テ，「マラリヤ」ニ依ル大單核細胞ノ増加ナリト推定セラル。

其ノ他，多少ノ淋巴球增多ヲ示ス者アルモ高度ナラズ。

第2節 嗜中性白血球ノ核型

第1項 實驗成績

第3表 臺灣蕃族ノ血液所見，殊ニソノ核型ニ就テ

實驗例	核 型					總數	連結橋ヲ含マザルモノ		連結橋ヲ含ムモノ	
	I	II	III	IV	V		平均核數	標準偏差	平均核數	標準偏差
1	34 27	47 44	16 25	3 4		100	1.78±0.05	0.77±0.04	2.21±0.06	0.97±0.05
2	26 23	48 41	20 30	6 6		100	2.06±0.06	0.83±0.04	2.20±0.06	0.87±0.04
3	40 27	51 55	8 17	1 1		100	1.80±0.06	0.88±0.04	1.92±0.07	0.73±0.03
4	14 11	49 40	28 35	9 14		100	2.32±0.06	0.82±0.03	2.43±0.07	0.80±0.04
5	20 17	54 45	20 30	6 8		100	2.12±0.05	0.79±0.04	2.29±0.07	0.84±0.04
6	27 15	40 45	31 35	2 5		100	2.13±0.05	0.77±0.04	2.40±0.06	0.91±0.04
7	41 30	47 48	12 22			100	1.71±0.05	0.66±0.03	1.91±0.06	0.76±0.04
8	39 32	54 55	7 11	2		100	1.68±0.04	0.59±0.03	1.93±0.05	0.69±0.03
9	49 30	40 49	10 17	1 4		100	1.63±0.05	0.70±0.03	1.87±0.07	0.89±0.04
10	19 17	56 49	20 26	5 8		100	2.11±0.05	0.77±0.04	2.25±0.05	0.82±0.04

11	52 35	46 57	2 8			100	1.55±0.05	0.63±0.04	1.81±0.06	0.80±0.04
12	40 35	43 37	12 20	5 8		100	1.82±0.05	0.63±0.03	2.14±0.06	0.92±0.04
13	31 19	56 61	13 18	2		100	1.82±0.06	0.82±0.04	2.13±0.06	0.66±0.03
14	41 25	45 51	12 22	2 2		100	1.75±0.05	0.73±0.03	2.10±0.05	0.74±0.03
15	52 35	41 50	7 13	2		100	1.56±0.06	0.92±0.04	1.82±0.07	0.81±0.04
16	18 16	50 35	27 41	5 8		100	2.18±0.05	0.78±0.04	2.48±0.06	0.82±0.04
17	46 33	37 40	14 21	3 6		100	1.74±0.05	0.80±0.04	2.00±0.06	0.88±0.04
18	31 19	45 51	22 26	2 4		100	1.95±0.05	0.77±0.03	2.15±0.06	0.59±0.03
19	39 29	45 52	16 19			100	1.77±0.05	0.70±0.03	1.99±0.06	0.81±0.04
20	29 27	57 53	11 17	3 3		100	1.87±0.05	0.71±0.04	1.96±0.05	0.74±0.03
21	45 32	43 48	9 15	3 5		100	1.70±0.05	0.75±0.03	1.93±0.06	0.80±0.04
22	34 26	56 58	5 9	5 7		100	2.01±0.05	0.74±0.04	2.20±0.06	0.80±0.04
23	26 17	64 57	20	6		100	1.88±0.05	0.68±0.03	2.13±0.07	0.78±0.04
24	30 12	47 56	22 29	1 3		100	1.94±0.05	0.74±0.04	2.33±0.06	0.69±0.03
25	27 21	53 46	15 26	4 6	1 1	100	1.99±0.06	0.81±0.04	2.09±0.06	0.84±0.04
26	43 28	44 48	13 18	6		100	1.70±0.05	0.68±0.03	2.04±0.06	0.82±0.04
27	26 23	48 41	20 29	6 7		100	2.06±0.06	0.83±0.03	2.20±0.06	0.87±0.04
28	30 23	56 52	11 20	3 5		100	1.87±0.05	0.67±0.03	2.17±0.06	0.91±0.04
29	12 10	59 56	26 28	2 5	1 1	100	2.21±0.05	0.71±0.04	2.31±0.07	0.74±0.03
30	33 24	45 49	19 22	3 5		100	1.92±0.05	0.79±0.04	2.18±0.06	0.81±0.04
31	38 27	50 57	5 8	6 7	1 1	100	1.82±0.06	0.85±0.04	2.12±0.06	0.84±0.04
32	24 17	58 56	15 22	3 5		100	1.97±0.05	0.70±0.03	2.15±0.06	0.86±0.04
33	41 22	42 40	16 24	1 4		100	1.77±0.05	0.74±0.04	2.20±0.06	0.78±0.04
34	19 17	51 46	25 29	5 8		100	2.16±0.05	0.78±0.04	2.28±0.07	0.82±0.04
35	43 25	43 52	11 18	3 5		100	1.74±0.05	0.76±0.04	2.04±0.06	0.81±0.04
總數	1226 893	1694 1598	485 839	92 167	3 3	3500 3500	1.85±0.009	0.76±0.006	2.12±0.008	0.80±0.006
百分率	35.0 25.5	48.4 45.6	13.8 23.9	2.7 4.7	0.08 0.08					

嗜中性細胞核型表中ニテ上段ニ表ハセル數字ハ連結橋ヲ採用セズ連結絲ノミヲ用キシモノニシテ、下段ニ「ゴシツク」ニテ表ハセル數字ハ連結絲及ビ連結橋ニヨリテ分類セルモノナリ。

連結橋ヲ含ム者モ含マザル者モ、2核性ノモノ最モ多カリキ。

平均核數ハ連結橋ヲ含マザル者ニテハ、2.00ヲ超ユル者7例、最低1.56ノ者1例ニシテ、大部分ハ1.70ヨリ1.90ノ間ニ存シ居レリ。全體ノ平均値ハ1.85個ナリキ。

標準偏差ハ0.92ノ者1例アリ。大部分ハ0.60ヨリ0.80ノ間ニ存ス。細胞數350個トシテノ

標準偏差ハ0.76ナリ。

連結橋ヲ含ム者ニテ平均核數ハ最高2.48，最低1.82ノモノ各々1例，2.00以上ノ者25例アリ。全體ノ平均値ハ2.12個ヲ示セリ。

標準偏差ハ，最高0.97ノ者1例，最低0.59ノ者1例アリ。3500個トシテノ標準偏差ハ0.80ヲ示セリ。

連結橋ヲ含ム者ト含マザル者トノ差ハ $2.12 - 1.85 = 0.27$ ニシテ兩者ヲ一所ニシタル平均ハ $(2.12 + 1.85) \div 2 = 1.98$ ナリキ。又標準偏差ノ平均値ハ0.78ナリキ。

第2項 總括及ビ考案

嗜中性細胞ノ核型ニテ，連結橋ヲ含マザル者ニテハ，ソノ平均核數ハ1.85，含ム者ニテハ2.12ヲ示シ，兩者ノ差ハ0.27ニシテ兩者ノ平均ハ1.98ナリキ。

由來嗜中性乃至假性エオジン嗜好性白血球ノ平均核數ハ，一般的ニ云ヘバ，分化ノ程度高等ナル者ニ於テ大ニシテ，分化ノ程度ノ低キ者ニナルニツレ小トナル傾向ヲ示セリ。然レドモ此法則ハ必ズシモ嚴密ニ非ズシテ殊ニ西洋人ニ關スル報告ニ據レバ，西洋人ノ平均核數ハ日本ノ夫レヨリ多キガ如シ。今，小野田氏ノ論文ヨリ哺乳類ノ平均核數ヲ列舉スレバ次ノ如シ。

日本人2.49，猿2.89，蝙蝠2.73，家兎2.53，白鼠2.49，廿日鼠2.69，海狸3.07，犬2.17，猫2.32，馬2.42，牛2.33，山羊2.91，豚1.51。小野田氏ハ，此關係ヲ各目動物ニ就キ，平均値ヲトリ，日本人2.49，靈長目2.87，翼手目2.73，齧齒目2.70，食肉目2.25，有蹄目2.29ヲ得テ大體ニ於テ分化ノ程度ト，平均核數ノ一致ヲ認メタリ。

尙，同氏ハ鳥類，魚類，爬蟲類ニツキ同様ノ事實ヲ認メタリ。

當實驗ニテハ，其ノ平均核數ハ健康日本人ノ夫レヨリ可ナリ少ナキ値ヲ有スルモ，果シテ是ガ種族特殊性ヲ示スモノカ，病的左方移動ナルカラ斷言セントスル迄ニハ更ニ多數ノ例ト深キ研究ト熟考ヲ必要トス。

第3節 嗜エオジン細胞核型

第1項 實驗成績及ビ考案

各種白血球百分率表作製ニテ，7000個ノ細胞ヲ數フル中ニ821個ノ嗜エオジン白血球存セン故，之ヲ總括表示セリ。

第4表 臺灣蕃族ノ血液所見，殊ニソノ核型ニ就テ

嗜エオジン細胞核型					
核	型	實	數	百分率	
I	1	k	71	109	13.28
			38		
II	2l	1k 2k	149	605	73.69
	1l		139		
			317		
III	3l	1k 2k 3k	2	96	11.69
	2l		13		
	1l		11		
			70		
IV	4l	1k 2k 3k 4k	—	11	1.34
	3l		—		
	2l		—		
	1l		—		
			11		
V	5l	1k 2k 3k 4k 5k	—		
	4l		—		
	3l		—		
	2l		—		
	1l		—		
			—		
總 數			821	100.00	
平均核數			2.01±0.02		
標準偏差			0.55±0.006		

上表ヲ眺ムレバ、1核ニテハ長核多クシテ短核少ナク、2核ニテハ長核少ナク短核多ク、3核ニテハ短核多數ヲ占メ、4核ニテハ短核ノミトナル。且、全體トシテ2核性ノ者最モ多ク、73.69%ナリ。而シテ平均核數ハ2.01個トナレリ。

是レ嗜エオジン白血球ノ核ハ通常2個ニ分葉シ、圓形、若クハ卵圓形ヲ呈スル者比較的多キガ如シ。

第3章 本篇ノ結論

余ハ外觀上健全ナル臺灣パイワン族35名ヨリ得タル血液塗抹標本ニメイ・ギムザ染色ヲ施シ、白血球ノ百分率並ニ嗜中性及ビ嗜エオジン白血球ノ核型ヲ檢索シ、次ノ如キ結論ニ達セリ。

1. 各種白血球百分率ニ就テ見ルニ、嗜中性48.0%、嗜エオジン性11.3%、嗜鹽基性0.6%、淋巴球33.9%、大單核球6.1%ヲ示シタリ。コノ中注目スベキハ、嗜エオジン性白血球ノ高率ナリシ事ニシテ、最高例ハ21.0%ヲ示シ、5%以下ノモノハ僅カニ3例ナリキ。コハ恐ラク被檢蕃人が寄生蟲ヲ保有セル事ニ基因スルモノナルベク、殊ニ同地方ガ「マラリヤ流行地ナルヲ以テ(平均罹病率毎月10%)、「マラリヤ罹患後ノ恢復期ニ在リシモノト考ヘラル。且又、大單核球ハ總平均ニテ6.7%ニテ正常ナリシモ8%ヲ超ユルモノ11例アリタリ。即チ、極ク輕度ノ大單核球增多アリシハ、以前經過セル「マラリヤ病ニ基因スルモノアラン。

2. 嗜中性白血球ノ核分葉數ヲ視ルニ連結絲ヲミヲ採用セル場合ニハ平均核數1.85ヲ示シ、連結絲及ビ連結橋ヲ採用セル場合ニテハ平均核數2.12ヲ示シ兩者ノ平均ハ1.89ナリ。カハル數值ハ普通日本人ノ數ニ比シ少ナン。コハ蕃人ノ種族特殊性ニヨルモノカ、又ハ「マラリヤ病ソノ他ノ罹患ニヨルモノナリヤハ今後ノ研究ニ俟ツ所ナリ。

3. 嗜エオジン性白血球ノ平均核數ハ2.01ナリキ。

擧筆ニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜ハリシ杉山教授ニ深ク感謝スルト共ニ、教室員各位ノ御便宜、御好意ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表ス。尙當標本ヲ提供サレシ臺灣醫學專門學校教授横川定氏及ビ森下講師ニ深謝ス。

文 獻

- 1) **Arneth** : Die qualitative Blutlehre 1926. 2) **O. Naegeli** : Blutkrankheiten und Blutdiagnostik. 3) **杉山教授**, 多核白血球ニ於ケル核移動ノ檢査ニ就テ。十全會雜誌, 第38卷, 第1號. 4) **橋慶一郎, 藤田秀一, 宮村直夫**, 健康日本人學生ニ於ケル中性嗜好性白血球ノ核型。十全會雜誌, 第39卷, 第8號. 5) **小野田外與治**, 白血球ノ核移動ニ關スル研究補遺。十全會雜誌, 第39卷, 第4號. 6) **小宮悅造**, 臨床血液學. 7) **Arneth, J.**, Die neutrophilen weissen Blutkörperchen bei den Infektionkrankheiten Jena. 1904. 8) **小倉金之助**, 統計的研究法.